

平成 27 年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブコースセミナー

日 時：2015 年 9 月 27 日（日）講演 A：13:00～14:30／講演 B：14:45～16:00

場 所：新大阪丸ビル別館 4-3 会議室

テーマ：思春期・若年成人がん患者（AYA 世代）の移行期支援

講演 A：思春期・若年成人がん患者の夢・希望と看護

講演 B：小児看護とがん看護の連携に関する事例検討

講 師：丸 光恵先生（甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授）

受講者：講演 A：79 名・講演 B：64 名（内 AB 共通受講者 64 名）

アンケート回収：75 名 ※講演 A・B 共通受講者はまとめて 1 枚提出

主 催：兵庫県立大学看護学研究科 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

代表：内布敦子

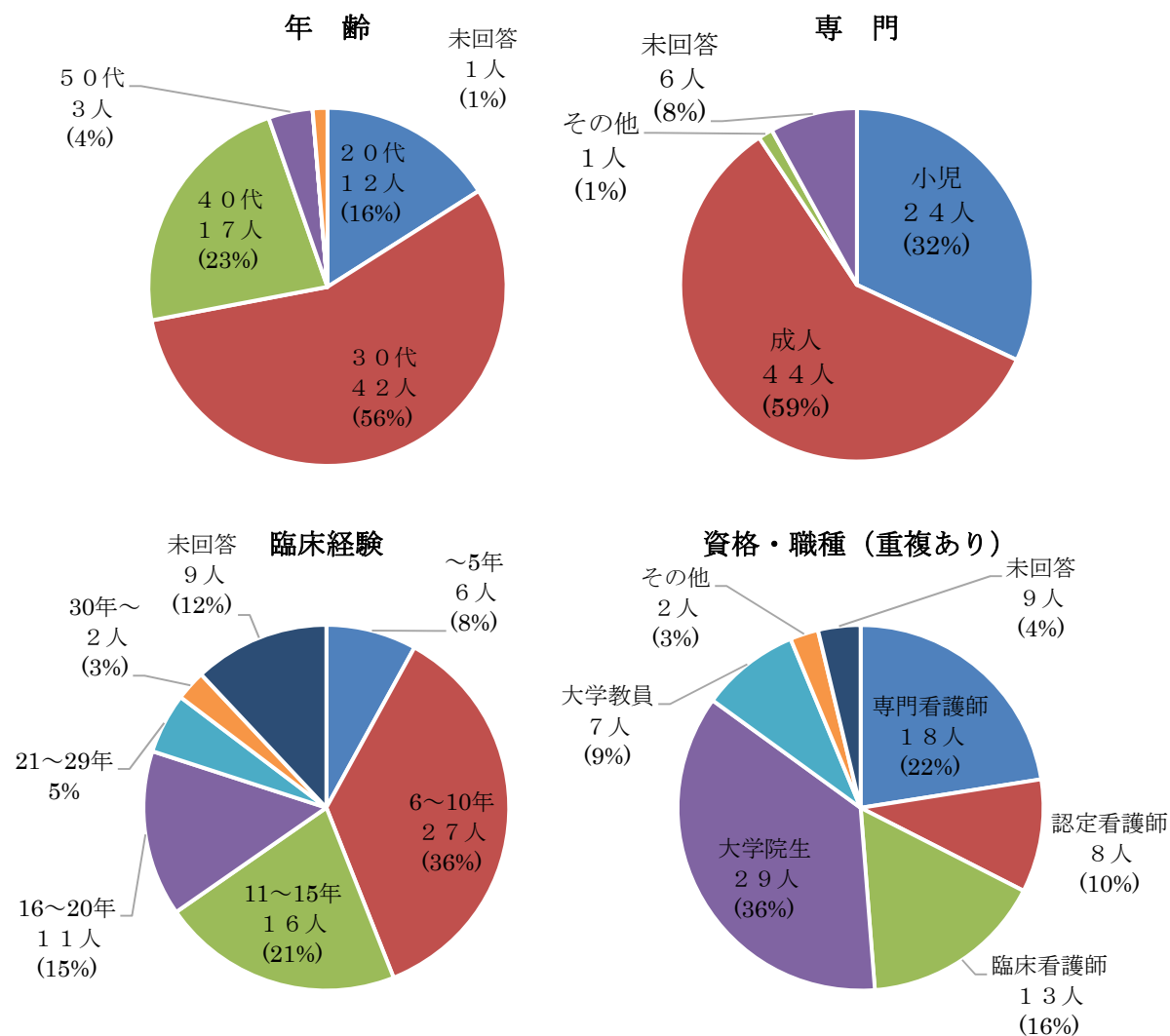
<開催概要>

今回のセミナーでは、「思春期・若年成人がん患者（AYA 世代）の移行期支援」をテーマとして、丸光恵先生（甲南女子大学看護リハビリテーション学部：教授）にご講演いただきました。講演 A では、小児・思春期・若年成人期のがん・がん医療における長期的な問題を取り上げ、思春期・若年成人期において「がん」「サバイバー」になる事の意味について分かりやすく解説いただきました。講演 B では、思春期・若年成人期のがん患者に必要とされる支援とケア提供モデルの課題についてご紹介いただき、その後 AYA 世代のがん患者に関する典型事例をもとに、グループディスカッションを通して事例分析を行いました。

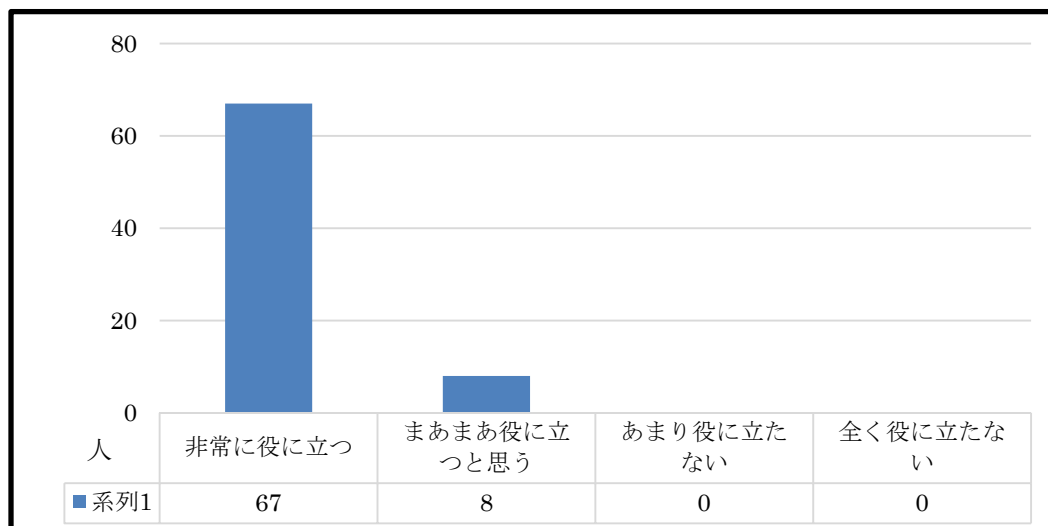


<アンケート集計結果>

Q 1 : 最初に、あなたご自身のことについて、お尋ねします。



Q 3 - 1 : 今回参加されたセミナーは今後役に立つと感じますか。



Q3-2：企画に参加してあなたが感じたことがあれば自由にお書きください

- ・成人のがん看護を専門としている先輩方と意見交換ができたことで、それぞれの視点の特徴や強み、弱みを学ぶことができた。
- ・わが子を思う親の気持ちに添いながら、患者の将来を見据えたヘルステラシーを支えながらの患者の主体性を支えていくことの大切さをより分かった。夢・希望の大切さがより理解できた。
- ・小児や若年成人についてほとんど知識や考えがなかったので参加したが、ヘルステラシーという考え方はその通りだと思った。
- ・まだ十分に明らかになっていないことが多く、治療や看護ケアなども十分に確立されていないことを理解した。
- ・がん看護の方々の患者の捉え方を知ることができて充実したものとなった。
- ・夢を持ちそれと希望をつなげる生き方。いつか臨床の場面で思い出したいキーワードであると感ずる。
- ・分野を超えてディスカッションできる機会をいただけてとても有意義な時間だった。実践の場にも生かしていきたい。また、小児がん経験者のフォローアップに関する研究に取り組んでいるため、様々な知識や情報、考え方を教えていただいた。今後も引き続き学習していきたい。ありがとうございました。
- ・AYA世代の移行医療の大切さを感じた。看護師として患者や家族を支える力が必要だと感じた。時間をもう少し長くして企画してほしいと感じた。
- ・AYA世代の特徴をもう一度理解することができた。
- ・小児の方のご意見が非常に新鮮で学びになった。自分にはないアセスメントをたくさん聞けてよかった。
- ・がんの方と共有させて頂けて刺激を受けた。
- ・小児と成人領域で患者さんの見方が違うことが分かった。
- ・AYA世代の課題や置かれている状況が理解できた。小児と成人の医療者の協働がどんな場面で必要なかを考える機会となった。
- ・分野が分かれていることのデメリットを痛感した。関われる人たちが共通理解をもてるような場をもつように生かしていきたいと感じた。
- ・AYA世代の患者が体験していることを知っていないと何も支援はできないと改めて気づいた。
- ・講義の内容と資料の内容の整合性を考えたレクチャーだとより理解が進むと思う。AYA世代についてビギナー知識も乏しい状況で臨むと「知っている前提」みたいなものがあり難しいところもあった。
- ・小児のアセスメントの見方、成人の見方の違いも感じ、改めて協働の重要性を感じた。また基礎教育においても伝えていくことの大切さも感じた。
- ・またがん CNS、小児 CNS のディスカッションの機会がほしい。

- ・小児とがんが融合することでここまでアセスメントの視野や関わるポイントがあるのだと気づくことができた。
- ・病の時期の発達課題だけみるのではなく、一人の人の人生を考えたケアを考えるという看護の原点を再確認できた。
- ・同じ CNS でも共有して一つの事例（患者さんを中心とした）に取り組む課題があり重要性を感じた。見る視点が異なることで多面的な意見が多く得られる重要性。
- ・AYA 世代についてあまり知らなかったためとても有意義だった。
- ・他分野との協働が大事。
- ・AYA 世代についてこれまであまり考えたことがなかったが、たくさん大切な問題をはらんでおり、看護師として支援できること、すべきことがあることを認識できた。
- ・諸外国のデータでは・・・と何度も言われたが、データの紹介があればよかった。
- ・小児から成人への移行期の特徴についてこれまでより深く考える必要性を感じた。小児 CNS からの意見も聞けてよかった。
- ・小児領域とがん領域とアセスメントの視点が異なるため、専門性を発揮するためディスカッションや相談しながら care を考えることの重要性を学ぶことができた。
- ・Dr が専門分野に分かれている中、Ns はそれを総合的にマネジメントする能力が求められていることを改めて感じた。いかに小児～成人への移行では情報を共有しプロフィールすることが大切と感じた。
- ・抱える課題－認知、妊孕、成長、夢も異なるが、倫理、身心社会的な care そして家族システムを参考にした care も通じるものがあると思った。
- ・患者をみる視点が大きく異なること。
- ・AYA 世代についてまったく勉強不足で今回様々なことを考えさせていただいた。
- ・小児がんの経験は意識することがなかった。2分野で情報を考えられるのはいろいろな視点で考えられてよかった。
- ・もう少しディスカッションの時間があるとよかった。小児ーがん看護のディスカッションが新鮮でよかった。
- ・小児 CNS の考え方などが聞ける場はよかった。
- ・自分の見えているものだけが全てではないこと、謙虚に現場を見ていく姿勢の大切さを思い出した。
- ・AYA に関する最新の知識を得られ、どのように臨床で活用できるか考えるきっかけとなった。
- ・がん看護として小児がんも関心が大きくなり連携していければいいと思った。
- ・成人がんを専門とされている方と話す機会が少なく、同じ研修を一緒に聴いてディスカッションできたことはとても有意義と思った。
- ・先を見据えた支援が大切だと痛感した。問題整理できて少しすっきりした。
- ・成人がん看護の実践にぜひ小児看護 CNS も巻き込んでいただければ幸いです。

- ・小児がん専門の方々の視点でご意見が伺えて大変勉強になった。とても分かりやすく貴重なご講演だった。
- ・難しいと思ったが小児からの見方に気づきが多かった。
- ・AYA 世代のがんサバイバーが抱える問題が個別で多様で奥深いと感じた。患者の歴史を把握していること、多職種、他施設との連携の重要性を実感した。
- ・小児のこと、AYA 世代のこと、今まであまり知らなかったがたくさん勉強できた。
- ・思春期・若年成人の方についてあまり経験はないが、一人の親としてまた思春期を経験した人として、大変考え深く重要であると感じた。北陸でも進めていかなければいけません。地域格差を少しでもなくしたい。
- ・成人領域の方とディスカッションすることがなかなかなかったので、同じ事例であっても見方が違うことを感じることもできた。ここが歩み寄れると子供にとっても親にとってもよくなっていくのだろうと思った。
- ・専門が違う人たちとのディスカッションが楽しかった。
- ・夢や希望につながる看護の重要性。
- ・今後のケアについて非常に勉強になった。
- ・小児がんサバイバーの方々の晩期の問題は様々であること。人としての成長を阻害される環境があるということ、そういう体験をしている人であることを学ぶことができた。

がん看護実践において、現在どのようなことが課題としてあげられるでしょうか。

また、それを解決するために必要な情報、知識はどのような内容でしょうか。

Q4-1：がん看護実践上の課題をお書きください

<連携・フォローアップ>

- ・退院支援、地域格差
- ・親ががんと子供への伝え方、子供へのサポート体制がないこと
- ・小児がん経験者に対する LTFU での看護が幅広く悩んでいるのが現状です
- ・AYA 世代 地域を含めたフォロー体制について
- ・療養の場が変化していく中での情報共有とケアの統一
- ・困難事例における看護の多領域との連携
- ・手探りで長期フォローアップ外来を立ち上げて行っている病院が多いので、看護師の自信がもてない、相談やアドバイスをもらえる相手がなくて困っている
- ・移行期の患者の理解
- ・移行期の支援
- ・意思決定支援
- ・入院中の子供たちの学習について。子供、家族、教諭との調整（退院後に向けて）学校の連携についてが課題（高校入試も）。看護部の小児看護の認識（外来看護師配置1名しかおらず、がんフォローアップしたくてもできない状況）

- ・小児と成人の連携をもっと強化していく必要があると思う。成人領域の人が小児領域の人に相談できるシステムが必要だと痛感する
- ・外来と病棟の連携
- ・若年性、成人のがん患者の情報共有、チームでの連携の難しさ
- ・専門知識が少なく（小児、若年成人期）看護実践で困ることが多い
- ・専門性の連携が必要な分野

<支援に関する事>

- ・復学支援や今まで告知を受けていなかった患者への告知
- ・兄弟へのターミナルについての説明
- ・同じ病気の子供の死を伝えることについて
- ・小児病棟の中には様々な年齢の子供たちがいるので（AYA 世代も含め）その子供たちにとってのよりよい療養環境の整備、看護面談の方法
- ・乳がんを発症した（発覚した）妊婦さんを担当することがあり、母性 CNS と共同してはいるが難しい

<その他>

- ・実際、AYA 世代の患者に関わったことがなく、事例検討の意見を聞いて成人の看護師は AYA 世代の患者の発達課題などの把握が難しく、共通認識が十分できていないことが問題だと思った。まず患者、家族のアセスメントを十分に行って医療者間で共有していくことが大切だと思った。
- ・対象理解についてはディスカッションされるが具体的 care についてディスカッションすることがよりよい実践につながると思う。
- ・医療の範疇を大きく超えたその人らしさ（この情報共有をしていけるようになっていきたい）を支えていく課題
- ・専門的な知識を持った人材を増やすこと。
- ・高齢がん患者への看護（セルフケア支援、アドヒアランスの支援など）
- ・AYA 世代で血液がんを発症された方に妊孕性の問題をベテランの医師ほど説明されていない状況がある。
- ・タイムマネジメント、実際に動く際の工夫
- ・ジェネラリスト、部署とのカンファレンスの持ち方、事例検討などジェネラルとの会もしてほしい。

Q4-2：今後、セミナーで取り上げて欲しいテーマをお書きください

<AYA 世代に関すること>

- ・AYA 連携の部分、もう少し深めたい。
- ・AYA 発症がんを実践でみている方からの講義

- ・骨髄移植について（AYA 世代も含めて）

<事例検討会>

- ・事例検討会（困難事例など）
- ・具体的な看護（事例検討など）

<小児がん看護に関すること>

- ・原発などからがんになる不安を抱えている子供へのフォローなど
- ・小児がん看護
- ・小児がんの長期フォローアップ外来の実際や看護について取り上げてほしい。

<その他>

- ・多職種、他部門との協働、連携
- ・Bad news を伝える前後、初発時、治療開始時の患者・家族への看護面談の方法
- ・就労問題
- ・性差によるケアの違いなど
- ・精神や慢性（糖尿病、合併症）などの多領域と共同の研修
- ・CNS として多職種との協働
- ・同じようなテーマで日本の現状がまだ明らかになっていないので海外の動向を詳しく知りたい。
- ・長期フォローアップの看護外来の必要性
- ・患者が亡くなったという経験をした看護師のストレス解消方法（今までのケースから）
- ・精神疾患のある患者様のケア

Q-5：その他、何かご意見・ご感想があればお聞かせ下さい

<ネットワークについて>

- ・ネットワークはぜひ欲しい。
- ・メールでの連携や近県で集まったりというのはステキな内容だと思った。
- ・近隣のがん診療拠点病院のネットワーク活用（事例検討会ひらく）
- ・川崎先生が言われていた近隣での事例検討会（がん CNS、小児 CNS）をしてみたい。
- ・メールでの相談窓口があればぜひ参加、相談したい。

<ディスカッションについて>

- ・グループディスカッションによって意見交換、共有することができた。もう少し時間があればと思った。
- ・事例検討会賛成です。
- ・このような研修は看護だけではなく多職種も学ぶ必要があると思う。融合教育ができればよいと思う。
- ・事例検討中心の会を希望。
- ・グループワークをするのに 20 分では話すポイントが多すぎる。1 グループの人数が多

すぎるように思った。

<スライド・資料について>

- ・スライドでの資料の方が分かりやすかった。
- ・パワーポイントの資料が欲しかった。
- ・スライドを資料として渡してほしい。

<その他>

- ・もっと早い時期に広告を出してほしい。病院や大学院に案内してほしい。関東でも同様の研修を開催してほしい。
- ・最後の内布先生の話ですが、子供も子供なりに治療、症状体験は捉えられています。とても特徴的だったりしますが、私はとても大切だと思いますし、そのことを大切にしてケアしてくれる看護師が増えればいいと思う。
- ・またの機会に参加したい。
- ・貴重な学びをありがとうございました。
- ・実践 care ではどのように行っていくことがよいのか知りたかった。